

# 在宅医療・介護連携に関する アンケート調査結果

調査期間：R4. 3.1～3.18

調査対象：都城市の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員

回答者数：令和3年度 142名（令和2年度 180名）

調査目的：在宅医療・介護連携の進捗状況の把握をするため、追跡調査をするもの。  
(一部追加質問あり)

調査実施年度：平成26年度、平成30年度、令和元年度、令和2年度

# 問1 医療との連携で困難さを感じることがありますか。

<選択肢> ア ある

イ ない

ウ 無回答

令和2年度

ウ 1.1%

イ 30.0%

ア 68.9%

令和3年度

ウ 1.4%

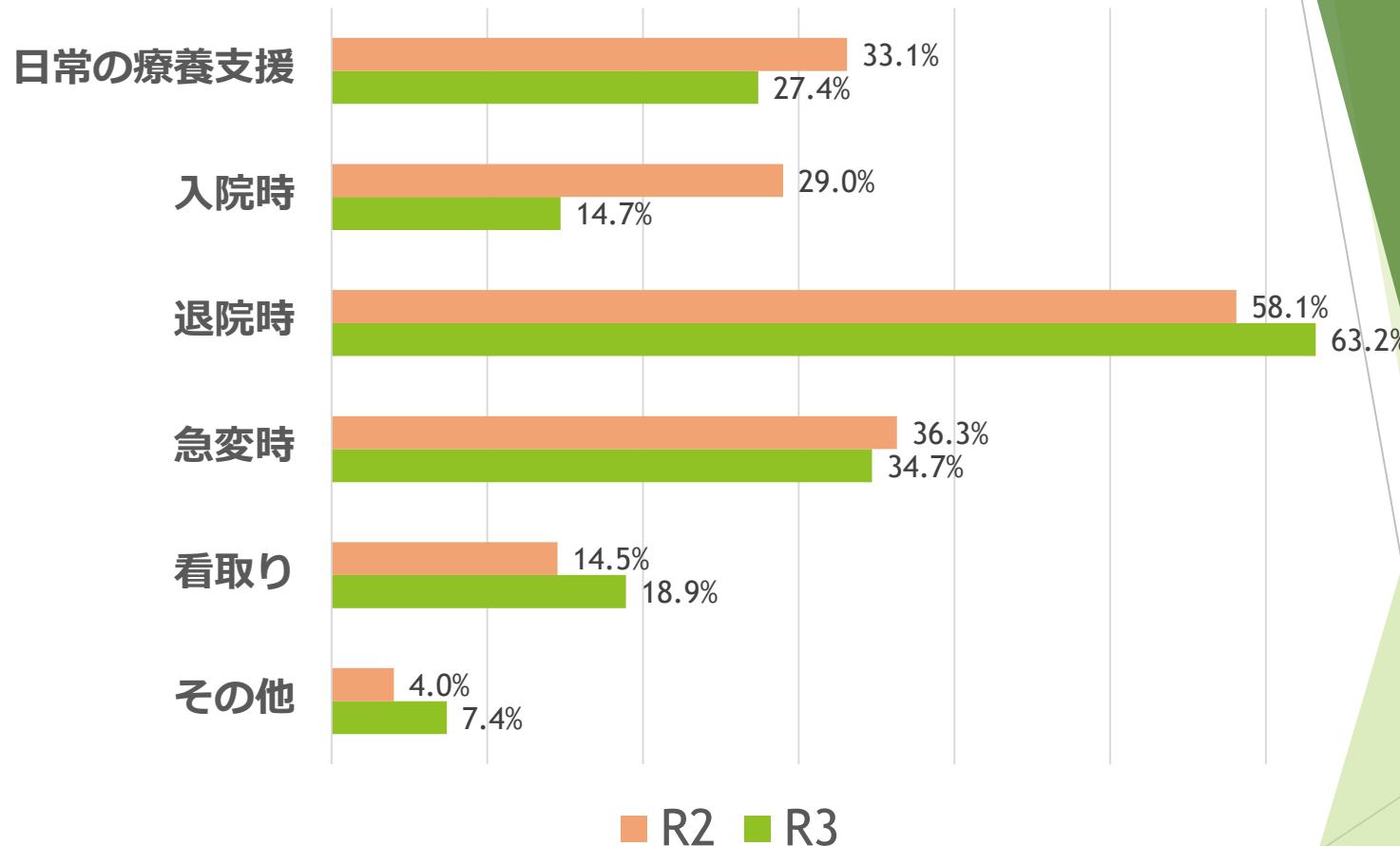
イ  
32.2%

ア 66.4%

令和2年度と比べ、「医療との連携で困難さを感じること」について、

- ・「ある」と回答した介護支援専門員は2.5ポイント減少した。
- ・「ない」と回答した介護支援専門員は2.2ポイント増加した。

問2 多職種との連携が特に困難さを感じる場面はどこですか。（複数回答可）  
※問1で医療との連携に困難さを感じると回答した95人のうち



- ・R2年度と同様、「退院時」が最も多かった。
- ・R3年度は、「入院時」よりも「看取り」の場面の方が、医療との連携の困難さを感じる割合が4.2ポイント多かった。

### 問3 3年前と比べて医療との連携の困難さに変化がありましたか。

<選択肢>

ア 少なくなった

イ 変わらない

ウ 増えた

エ 無回答

**令和2年度**

ウ 3.9% エ 1.7%

イ 39.4%

ア 55.0%

**令和3年度**

ウ 9.7% エ 2.8%

イ 34.7%

ア 52.8%

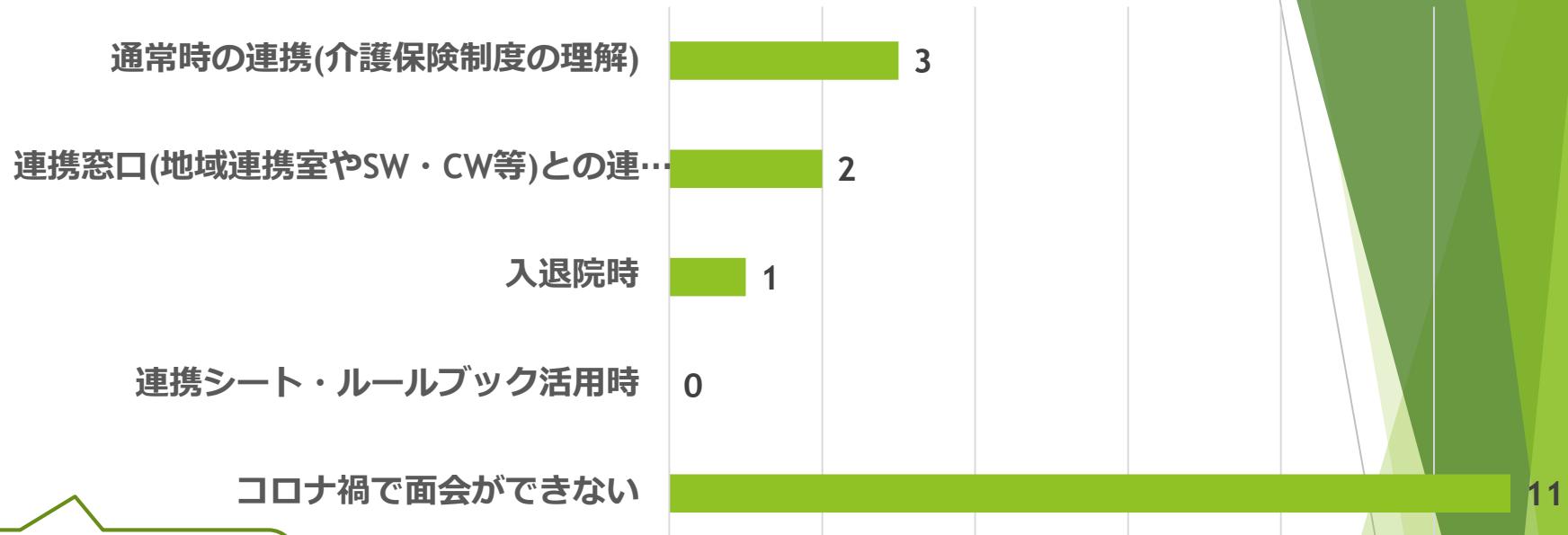
問4 どのような時に少なくなったと感じますか。 (問3で「少なくなった」と回答した方のみ回答) 自由記述から分類



詳細については、  
別紙1を参照。

- ・地域連携室やSW等の配置により、連携窓口が明確化された病院が増えたこと、さらに病院側からも入退院時の連絡がケアマネにあることにより、連携がしやすくなったと回答した人が一番多かった。

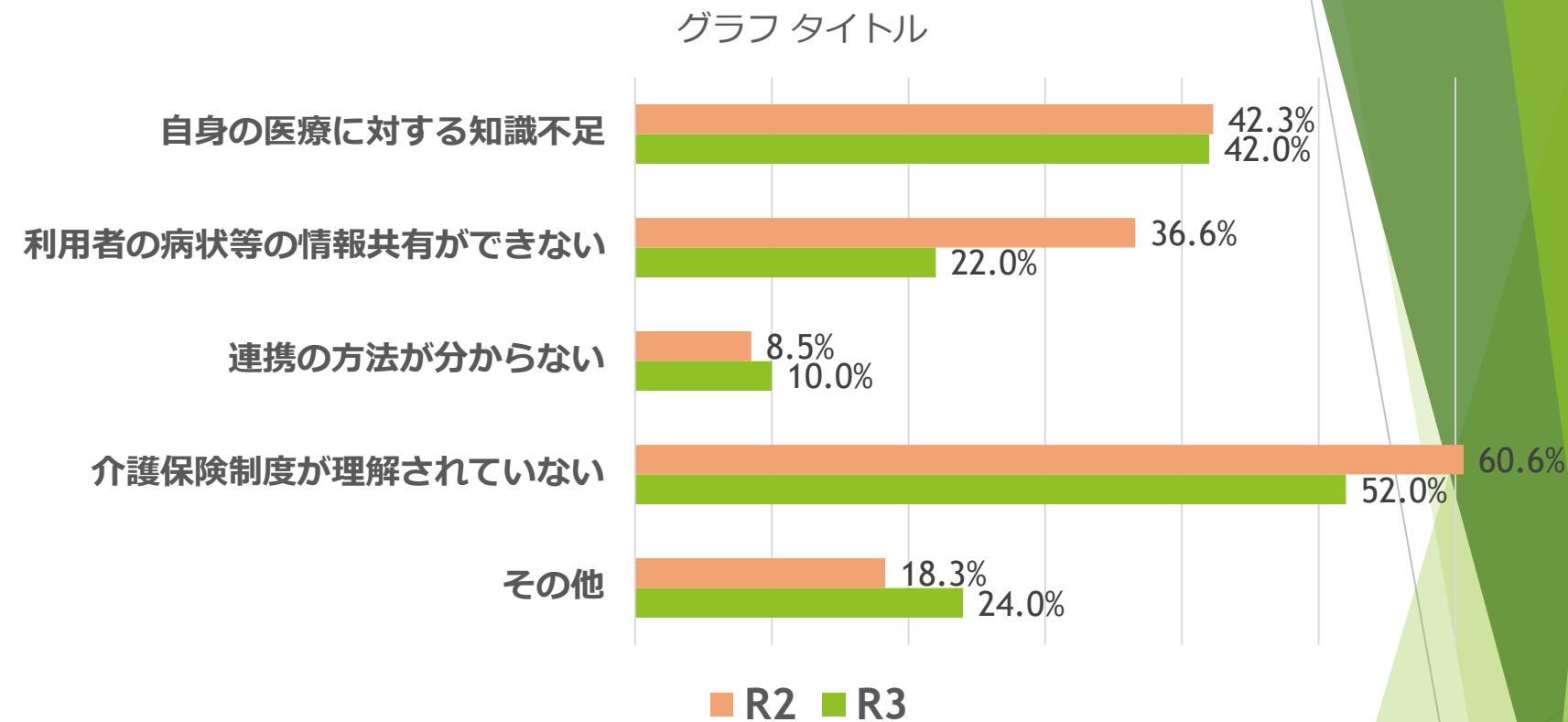
問4 どのような時に増えたと感じますか。 (問3で「増えた」と回答した方のみ回答)



詳細については、  
別紙1を参照。

- ・コロナ禍で面会制限があるため、本人の身体状況や意向の確認が十分にできないと回答した人が一番多かった。

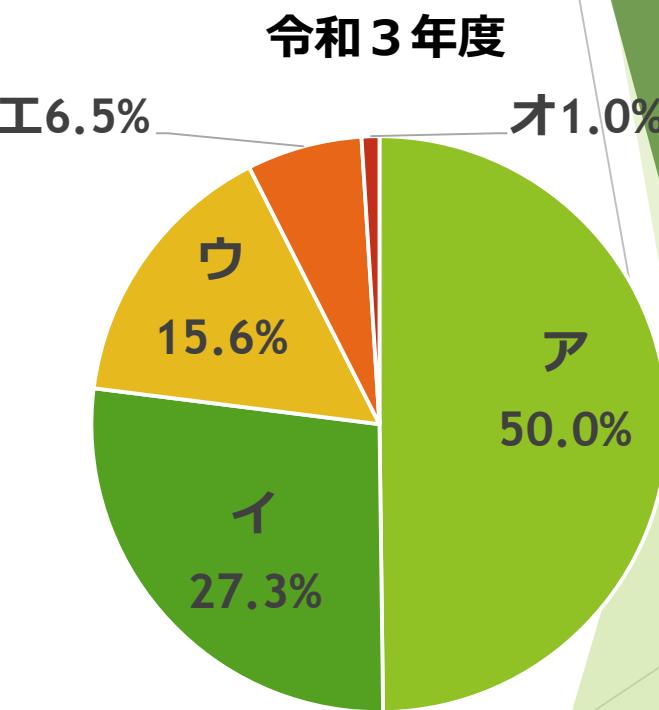
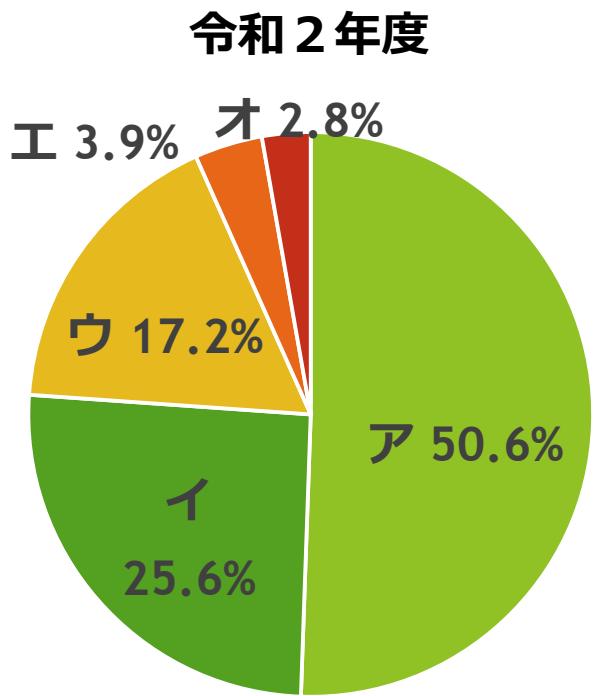
## 問5 困難さの理由は何ですか。 (問2で、「変わらない」と回答した方への設問)



- ・例年同様、「介護保険制度が理解されていない」との回答が5割を超え、一番多かった。医療側・介護側の相互の理解のために、研修会等を検討していく。
- ・「その他」の意見としては、「地域連携室やソーシャルワーカーの配置が無い病院との連携が困難に感じる」、「入退院時の連絡がない」との意見が多かった。

問6 多職種との連携において、もっとも有効と思われるツールを1つ教えて下さい。

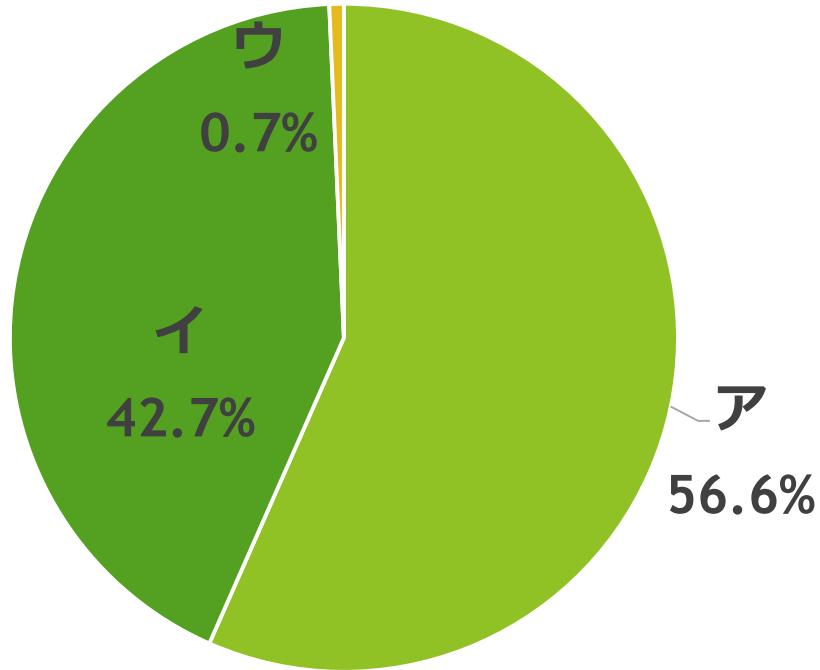
- |       |   |                    |   |     |
|-------|---|--------------------|---|-----|
| <選択肢> | ア | 多職種が活用できる連携シート     | 工 | その他 |
|       | イ | ICTによる情報共有ツール      |   | オ   |
|       | ウ | お薬手帳のような個人が持つ情報ノート |   |     |



- ・半数のケアマネが「多職種が活用できる連携シート」と回答し、例年通り一番多かった。  
今年度は、昨年度作成した「見える化図」に加え、相談種類毎の連携シートを作成予定。普及啓発が課題である。

## 問7 「安心入退院ルールブック」を知っていますか。

<選択肢> ア 利用したことがある イ 知っているが、利用したことが無い  
ウ 知らない

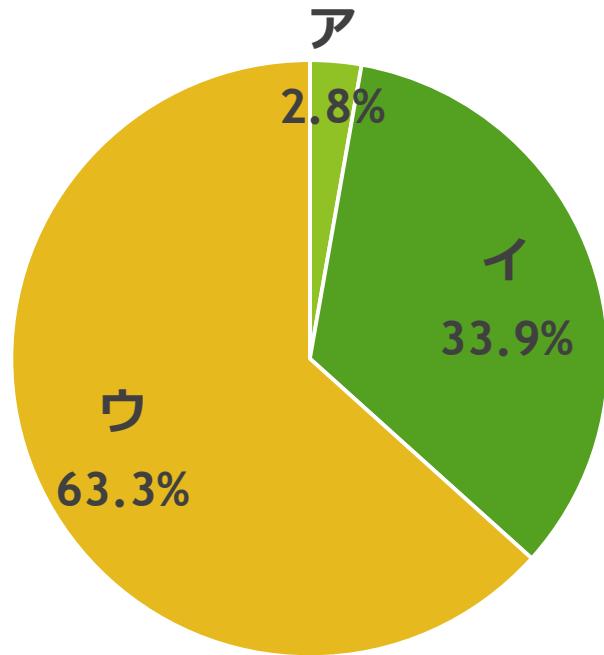


- ・平成30年3月から運用を開始しており、認知度は高い結果となった。
- 在宅医療・介護部会Bで周知を行った成果と考えられる。

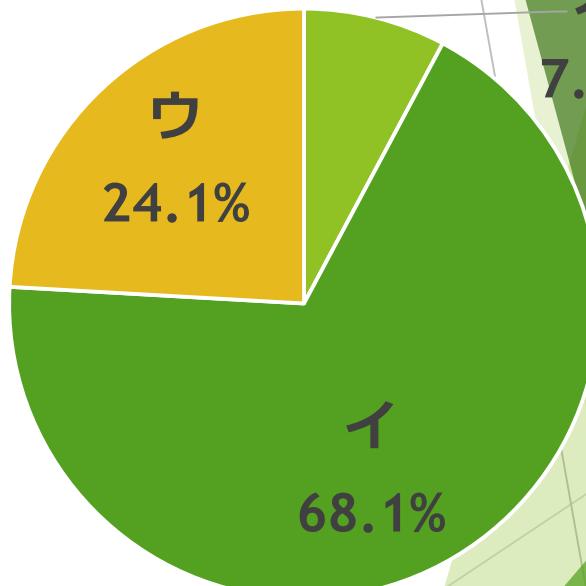
## 問8 情報連携ツール「メディカルケアステーション(MCS)」を知っていますか

＜選択肢＞ ア 利用したことがある イ 知っているが、利用したことが無い  
ウ 知らない

令和2年度



令和3年度



- ・利用したことがあると回答したのは、昨年度に比べ5.0ポイント増加した。
  - ・「知っている」人の割合が、7割以上と増加し、MCSへの認知度が高まった。
- 認知度は高まったが、利用したことが無い人が1割未満であるため、活用方法について周知していく必要がある。

問9 MCSを知っているが、利用したことが無い理由を教えてください。

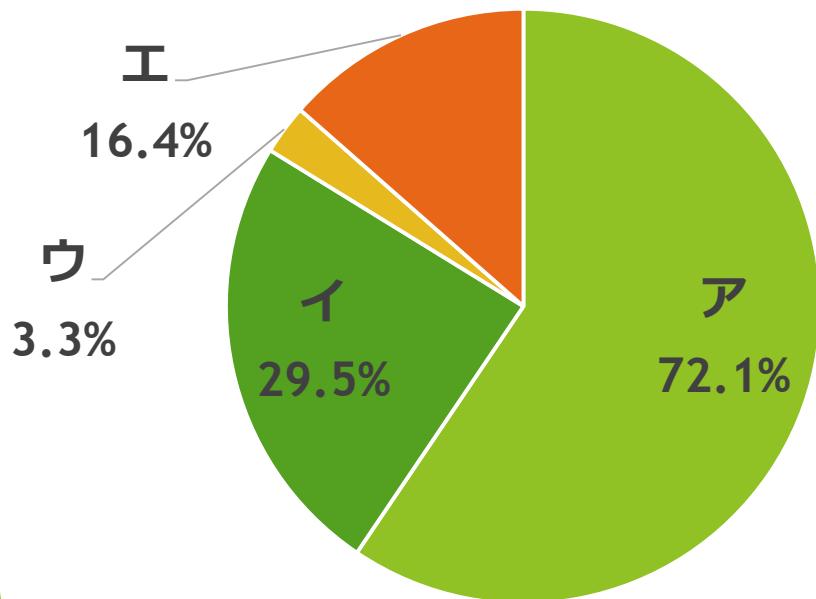
※問7で、「イ 知っているが、利用したことが無い」と回答した61人のうち

＜選択肢＞

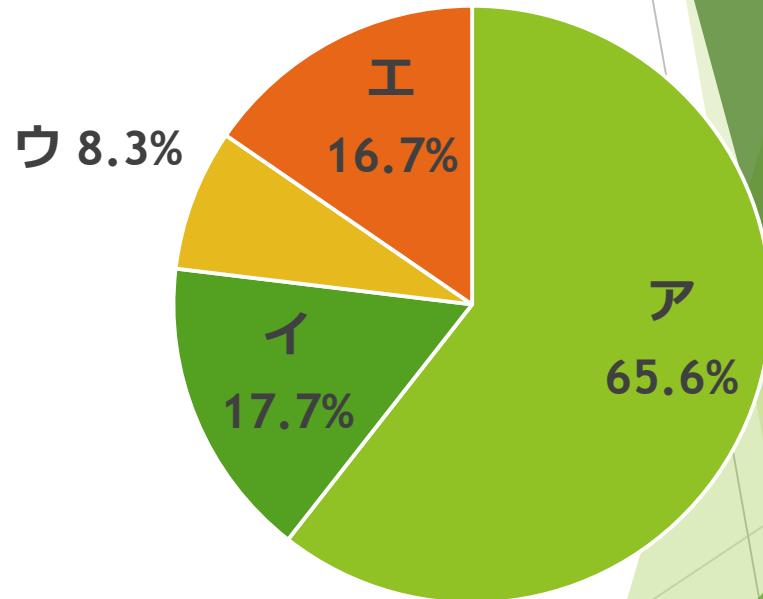
ア 周囲に利用している人がいない  
ウ 事業所で許可されない

イ 使い方が分からない  
エ その他

令和2年度



令和3年度

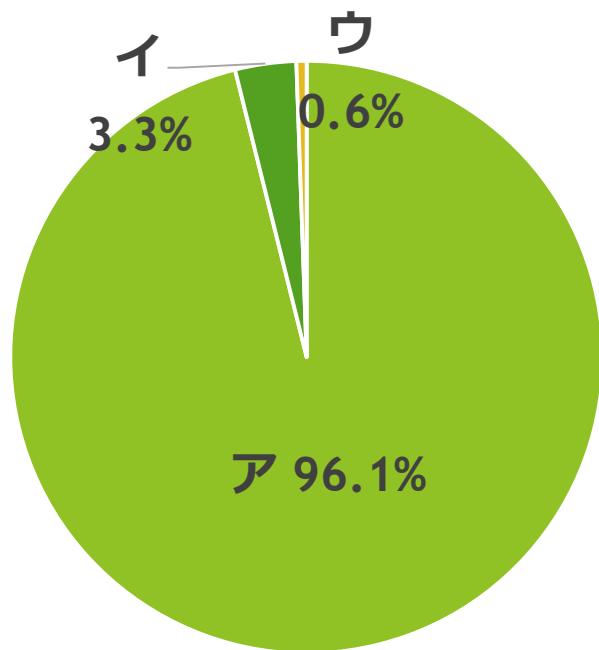


- ・昨年度と同様、「周囲に利用している人がいない」と答えた人が最も多く、次いで「使い方が分からない」が多かった。
- ・導入している医療機関や事業所の活用状況について、研修会等の開催により周知し、利用者の増加に繋げていきたい。

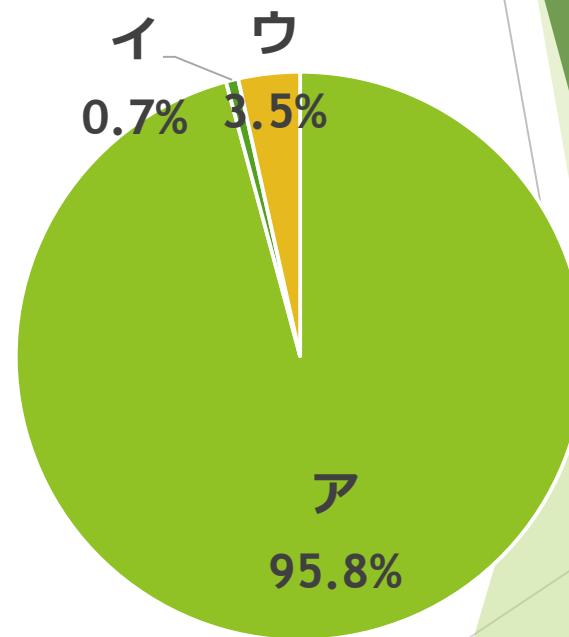
問10 医療機関が実施する退院前カンファレンスに参加したことがありますか。

<選択肢> ア ある イ ない ウ 無回答

令和2年度



令和3年度

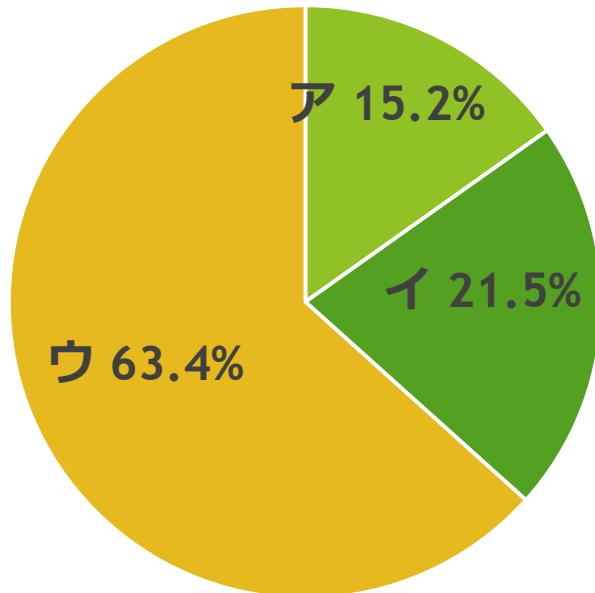


・ほとんどのケアマネが退院前カンファレンスに参加したことがあるとの回答だった。

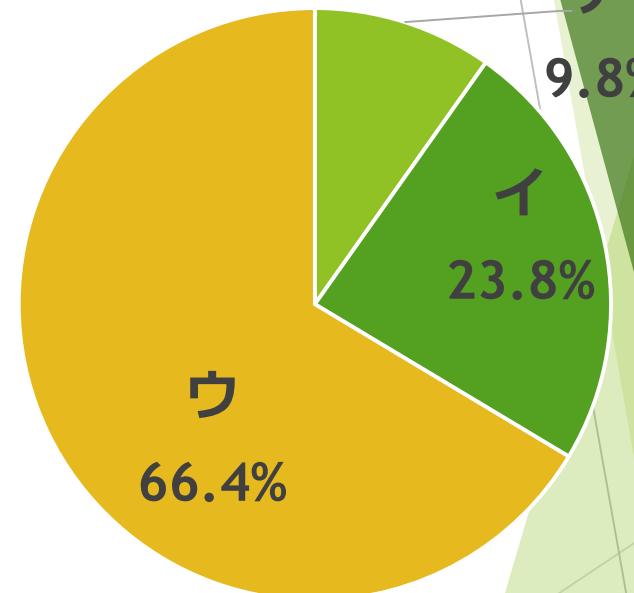
## 問11 担当者会議に医師の参加を呼びかけていますか。

<選択肢> ア 呼びかけている イ 呼びかけていない  
ウ 直接の呼びかけはしていないが、文書等により意見を聴取している

令和2年度



令和3年度

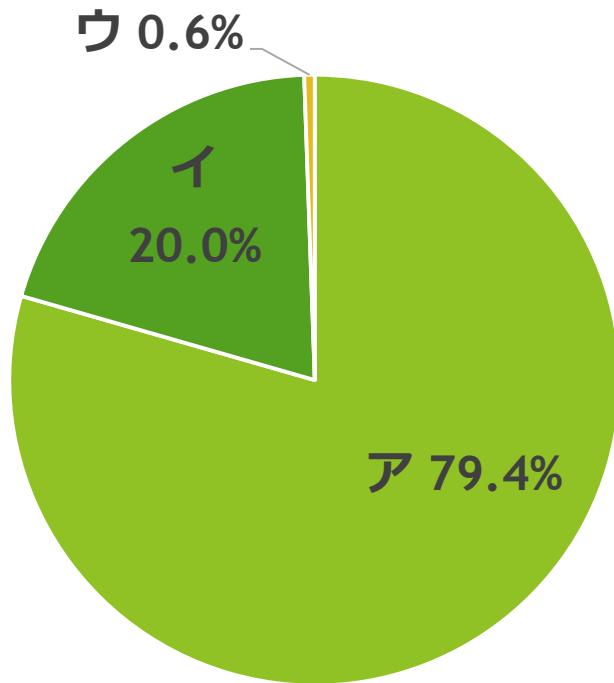


・昨年度と同様に、60%以上が「文書等により意見を聴取している」と回答した。

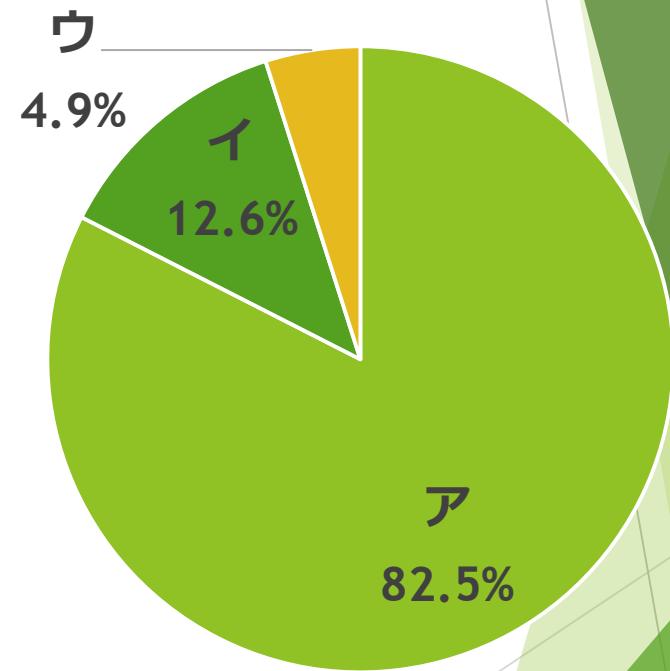
## 問12 「在宅医療・介護連携相談支援センター」をご存知ですか。

<選択肢> ア 知っている イ 知らない ウ 無回答

令和2年度



令和3年度

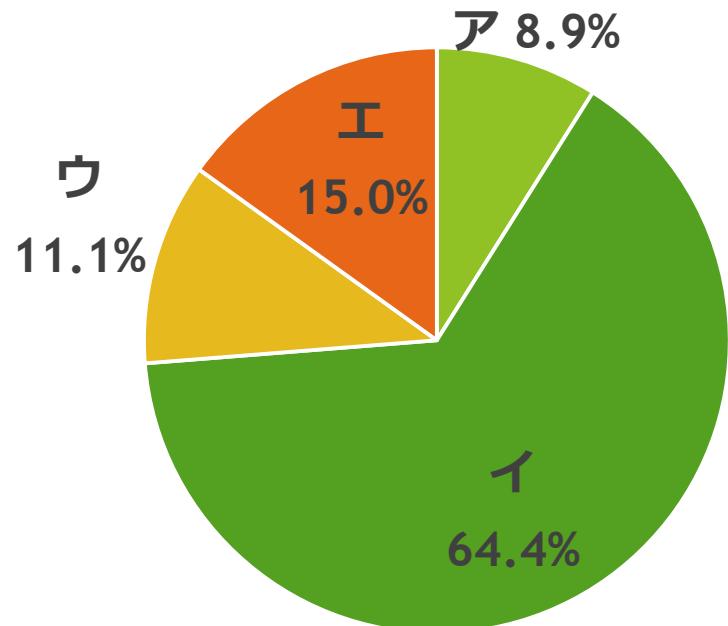


- ・昨年より「知っている」と回答した人が3.1%増加した。
- ・ホームページ「在宅ぼんちネット」や多職種電話相談等の周知により、認知度が上昇したと考えられる。

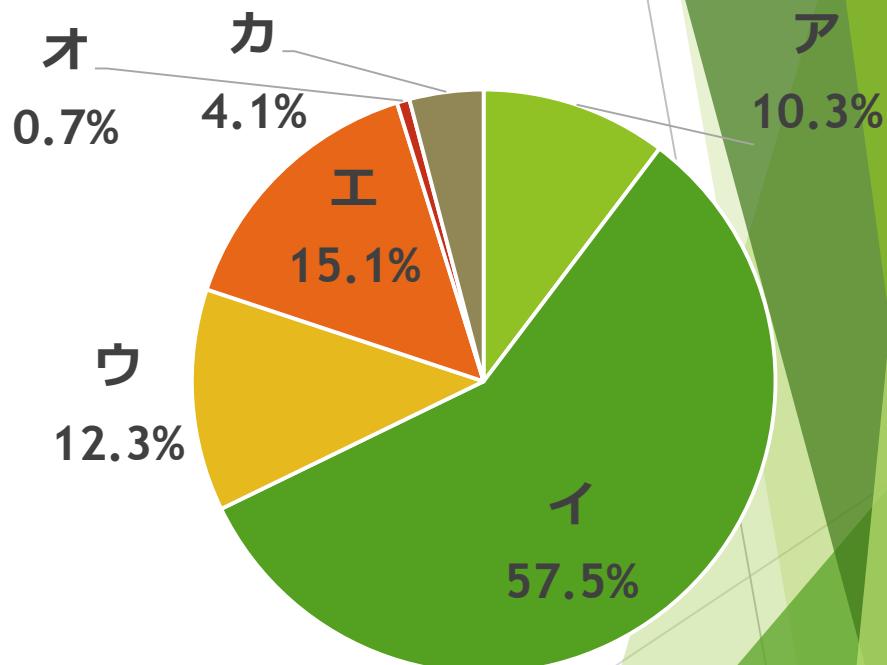
### 問13 在宅医療・介護連携相談支援センターへの相談について教えて下さい。

- |       |   |                         |   |                      |
|-------|---|-------------------------|---|----------------------|
| <選択肢> | ア | 相談したことがある               | エ | どのようなことを相談してよいかわからない |
|       | イ | 必要時には相談したいと思う           | オ | その他                  |
|       | ウ | 連携が取れており、今のところ相談することはない | カ | 無回答                  |

令和2年度



令和3年度

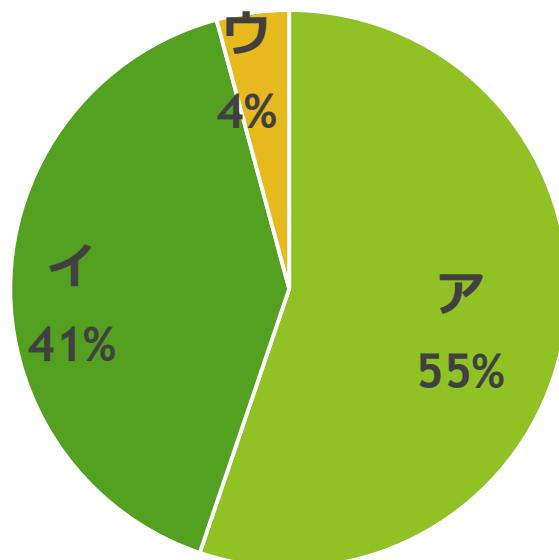


- ・「相談したことがある」との回答が昨年度よりも増加した。
- ・「どのようなことを相談してよいかわからない」という回答も昨年同様あるため、今後も普及啓発していきたい。

問14 当協議会で開催している在宅医療・介護連携に関する研修会について、これまでに参加したことがありますか。

<選択肢> ア 参加したことがある イ 参加したことがない ウ 無回答

令和3年度



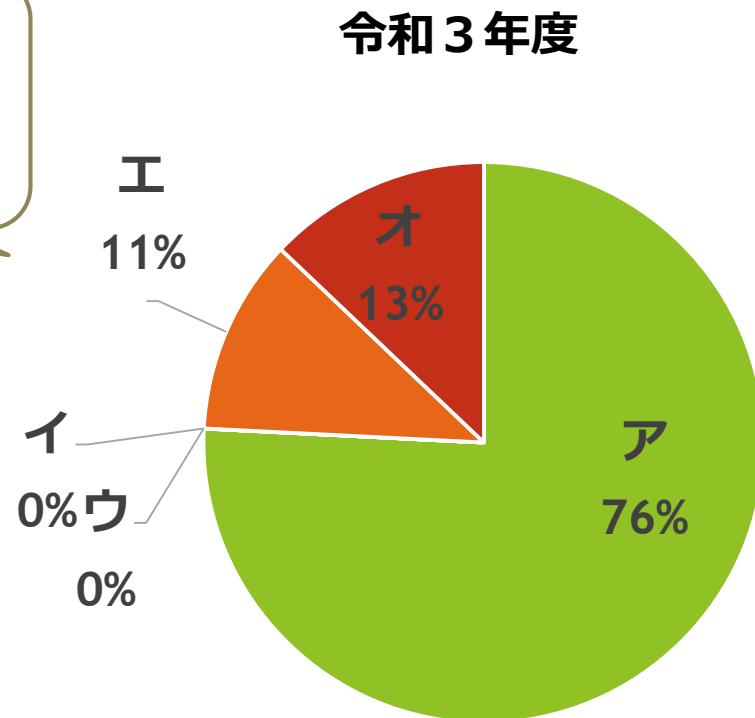
・半数以上が「参加したことがある」との回答だった。

## 問15 研修会に参加したことがない理由を教えてください。

＜選択肢＞ ア 開催日時があわない  
イ テーマに関心がない  
ウ 講師に関心がない

エ 開催方式があわない  
オ その他  
カ 無回答

希望の開催方式として、  
オンライン、録画配信が  
半数ずつ



・「開催日時があわない」と答えた人が最も多い。  
オンラインや録画配信の希望もあったため、多くの方が参加できるよう検討していきたい。

## 問15 研修会に参加したことがない理由を教えてください。（自由記述）

事業所で代表者が出席している

管理者が参加し伝達してくれる

あることを知らなかった

開催日時が分からない

他に出席したい研修会があるため（あまり多くは出席できないので）

事業所にて他ケアマネジャーが代理にて参加してもらったため、

入職後1年未満であるため、参加したことが無い。今後参加したいと考えている

事業所の代表が参加するため、自分は参加したことはないが、研修内容の伝達は受けている

- ・本人が参加できない場合でも、代表者や代理で参加した方から伝達を受けているという回答が多かった。
- ・今年度もより多くの方が参加できるよう、研修会の周知や開催方式について検討したい。

## 問16 研修会について、ご意見・ご感想をお聞かせください。（自由記述）

定期的に医療と介護の交流の場を設けてほしい

オンラインでの研修で参加しやすい。また録画配信も企画してほしい。

時間帯が遅く負担が大きい

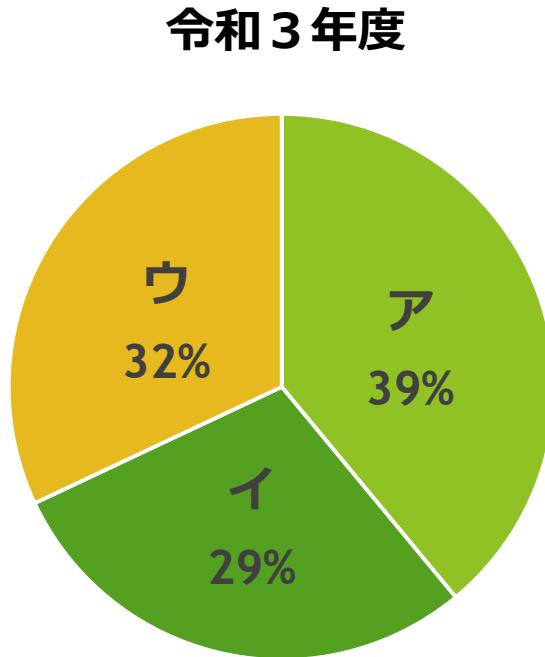
なかなか看取りを経験できない多職種が一緒に学び、知識を深める機会になったとも感じました

MCSを実際に使っている人や、導入した経緯、どのようにDr. やNs. 等と連携しているのか知りたい。

- ・研修会の開催について、肯定的なご意見が多かった。
- ・MCSについては、実際の活用状況をさらに周知していきたい。

## 問17 「在宅ぼんちネット」を知っていますか。

＜選択肢＞ ア 知っていて、見たことがある イ 知っているが、見たことがない  
ウ 知らない



- ・「知っている」人は約7割だった。
- ・「在宅ぼんちネット」について、在宅医療・介護関係者や一般の方が見たい情報を掲載できるよう検討していく。

## 問18 「在宅ぼんちネット」にどのような情報があればよいと思いますか。 (一部抜粋)

- ・グループホーム、特養等の空き情報。新規事業所の情報。
- ・在宅で手軽に行える健康法や、運動などの発信。医療や介護で困ったときのフローチャートなど、簡単に見れるものの発信。
- ・エンディングノートやDNRについて
- ・資源マップについて、各事業所の写真や特色等も書かれていると活用しやすい。市民の方は困ったときに情報を探されると思うので、困りごとに対する相談窓口の案内など、具体的な解決法が書かれていると良いかと思った。
- ・居宅事業所の紹介や、介護保険申請の流れなど
- ・HPで通院送迎ができるところや、介護タクシーの料金の情報等あると良いなと思います。
- ・社会資源情報（配達サービスの検索、例えばお弁当屋さん等）
- ・地域資源情報や活用法、ボランティア事業を行っているところの種類、内容等の紹介・情報など。

詳細については、別紙 2 を参照。

# 問19 今後充実して欲しい施策や多職種との連携について日頃感じていることを教えて下さい。（一部抜粋）

コロナ禍の中、入退院の連携のあり方について、情報の収集の難しさを感じる

退院前のカンファレンスで実際に行うのが難しいときはZoom等を使って行ってほしい

ルールブックの活用を行っているが、医療側はサマリー等があり、退院時の状況が得られにくく（一部介助がどの程度なのか等）相談員に電話で確認する等、相談員の負担も大きいと感じる。医療・介護が使いやすい情報共有ツールがあると良い。

MCSが利用しやすいように整備してほしい

入退院連携シートについて多職種で見直しする機会を作り、より現場で活用しやすいものにできたらと個人的に思います。また、オンラインが主になっていますが、コロナが落ち着けば多職種で集合による研修会や懇親会で、直接色々な話ができることで顔の見える関係が作っていけたらと思います

どの病院でも入退院時の連携が図れたら良いと思います。退院カンファレンスがあると、自宅へのサービス移行の調整がスムーズのように感じます。

退院時におけるリハビリや住宅改修を組むときに病院のセラピストと事業所のセラピストで考えが違うときがあるため、CMだけでなくPT・OTとの連携が図れる場が欲しいときもある。

## 今後の課題

- ・多職種セミナー、研修会等を通した医療側・介護側の相互理解
- ・MCSの周知、普及
- ・PTやOT等多職種と連携が図れるような連携シートの作成
- ・「在宅ぼんちネット」ホームページの内容の充実
- ・医療機関の連携窓口の明確化

詳細については、  
別紙3を参照。

問4 3年前と比べて、医療との連携の困難さに変化がありましたか。  
(少なくなったor増えたと答えた方に対し)どのような時にそう感じますか。

別紙1

カテゴリー	
少なくなった	<p>医療機関でも介護連携について認知されるようになったと考えます</p> <p>お互いに連絡することが多くなった。入院時情報共有シートを利用し出してから、情報が共有しやすくなった</p> <p>相談し易くなった</p> <p>ワーカーのいない病院とのやり取り、情報がもらえない</p> <p>情報の開示が早く、スムーズな退院・入院に繋がっている</p> <p>ケアマネに対して協力的なところが増えた</p> <p>書類の手続が容易になった</p> <p>入院時に連絡が来るようになった。随時状態の報告があり、コロナ禍で面会できない期間は助かります。</p> <p>相談窓口ができ、電話もすぐに繋いでくれるようになった</p> <p>情報が得られるようになった。病院側より連絡をもらうことが増えた</p> <p>入院先の窓口の連絡先が分かるので対応しやすくなった</p> <p>ドクターによって差がある。以前よりは理解し、連携をとりやすいドクターが増えたと思う。</p> <p>医師に書類をお願いしたときに、拒否等がなくなってきた。(介護支援と医療との連携に理解が持てるようになっていると思います)</p> <p>安心入退院ルールブックの活用</p> <p>対応する職員がいるところが増えた。介護保険はあまり理解されていない</p> <p>ケースワーカーが対応してくださり助かっている</p> <p>介護保険や介護支援専門員について理解があり、相談員さんがいることで連携が図りやすくなった</p> <p>入院時・退院時にすぐに連携できるようになった</p> <p>医療連携室との関係が良好</p> <p>聞き取りや相談を依頼したときの相談員や看護師、電話を受けられた方(事務員)の受け入れが良くスムーズ</p> <p>地域連携室のある病院からは、HSWより連絡がよく来るようになった。入院中の状況や退院前の情報を得やすい</p> <p>退院時情報共有連携シートの準備をしていただける病院が増えたように感じます</p> <p>SWが窓口になってくれる病院は連携が取りやすくなった</p> <p>連絡した場面の対応が良くなった</p> <p>入院時の情報提供・共有シートの活用で連携しやすくなった。</p> <p>窓口が一体化されたことで連携調整がしやすくなった。情報提供等の文書依頼もスムーズになりました</p> <p>H30年に「都城北諸県医療圏」医療機関窓口一覧表をいただいたことで、入退院調整相談窓口が明確になり、入退院時に情報を共有しやすくなった。</p> <p>退院後のサービス調整のための入院中の状況等、スムーズに情報提供をしていただけ、退院日の連絡をいただけるようになった。</p> <p>医療連携室や相談員ができ連絡しやすくなった</p> <p>退院連絡をしてくれるようになった</p>

少なくなった

病院にSWの配置されるところが多くなり、以前と比べて入退院時の支援がスムーズになった。

病院の方からも連絡が入るようになった

電話相談の際など

医療側の理解あり、対応がスムーズになってきている

医療連携について困難さは少なくなった。連携をされる担当や、役割の方が増えている。理解が定まってきた。病院受診、入退院、新規相談等の場面で思う。

以前は医療から連絡等は無く、家族から情報収集していたが、SWさんから連絡が多くなった。

連携時、介護知識があり、意見交換がスムーズに行えるようになった。

各病院に地域医療連携室や担当者が増えてきた

コロナ禍によって、一部連携が上手くいかない場合もありますが、全体としてはMSWを通じて医師や担当看護師をはじめ、セラピスト等との連携がとりやすくなり、退院から在宅への移行がスムーズになったと感じます。

病院側から連絡が来ることが増えた

病院によっては、MSWとの連携を密に情報共有をしやすくなった。主治医との連携がとりやすくなつた。(中には、地域連携室のスタッフが先走りして困ることもある)

Dr.への連携が担当のNsの方がいることでスムーズになっており、より受け入れがやりやすく感じる

入院・退院時MSWからの連絡が増えた。

主治医に対して照会文書等を依頼した際の対応が良くなり、早くなっている。徐々にではあるが、介護保険に対する理解がなされるようになっていると感じます

入院時、医療機関と連絡を取るときに連絡先が明確になった

入院時の連携が図りやすくなつた

医療機関へ担当が配置されるようになっている

入院中の情報収集がとりやすくなつた。

退院前に連絡がくるようになった

以前よりは病院との連携が図りやすくなっている

介護保険について病院などの理解が得られるようになってきた

入退院時等、病院との連携がスムーズにしやすくなつた。

Dr.と話しやすくなり、気難しさがなくなった。(自分にも構えるところがあったように思います)

病院からも連絡をいただけるので、退院時の調整がスムーズ

病院の受け入れや、対応・連絡が良くなつた。

連携する担当者(MSW、看護師等)が確保されており、誰に相談したら良いかということが少なくなった。

病院のMSWより連絡が来ることが以前より多くなつた

入院時情報提供等の依頼に協力的で対応が良くなっている。

入院中SWからTELが来るようになった。退院前や、目処が立つた時、カンファレンスの連絡が来るようになった。

病院側の対応について、スムーズに行えることが増えたと感じます。

医療センター、藤元総合病院等、連携室あり、情報提供もあり、状況把握しやすくなつた。

MSWとの連携が、以前よりスムーズに行えるようになった。

病院によっては積極的に連携をとってくれる。

少なくなった	<p>医療にも連携の必要性が知られたのか。ハードルが下がったように感じる。</p>
	<p>入退院時の連絡が来るようになつた(全病院ではないが)。</p>
	<p>入院時には連絡があり、基本情報のやり取り等、できるところが多くなつた。退院・転院時には連絡がない病院のMSWがあるので(TELしてもつかまらなかつたり)、困つた事がある。退院前日に「明日退院です。」と連絡があつたりする。</p>
	<p>医療側も入院時、ケアマネに一報入れる。連携をとる習慣がついてきたと感じている。</p>
	<p>医療機関によってはMSWさんがきちんと対応されているところもあるので、退院時もスムーズにサービスを利用できる。</p>
増えた	<p>コロナ禍で面会ができず、聞き取りの情報と退院時の体調や身体状況が違つており、ご家族も詳しく知らされていなかつた。</p>
	<p>コロナ禍で本人確認が不十分</p>
	<p>コロナ対策で面会制限があるため。</p>
	<p>CMが情報の提供をしても、HPからは何も協力が得られないときがある。</p>
	<p>コロナで面会できない。家族も分からぬ、聞いてないという。病院内での「できる」は在宅の段差のある住環境では、実際は「できない」ことが多い。それをHPが理解していない</p>
	<p>感染対策のため、本人の意向や考えが聞けないこと、また医療従事者、多職種の意向が聞けない</p>
	<p>コロナにより面会もできず、相談員との面談も電話のみで、実際目で見て状況の確認ができなかつたりするため、退院後の判断が難しい</p>
	<p>コロナ感染拡大で面会ができないため</p>
	<p>病院によっては入院中の連携も取れるが、コロナ禍での入院で面会もできず、入院中の状況も分からぬ、電話確認してもはっきりした返答が得られない、忙しい様子が伝わる</p>
	<p>新型コロナのため、入院中の利用者等に直接会うことが困難なこと</p>
	<p>感染対策で本人の状態が把握しにくい。住宅も面会禁止となつてゐるため、看取りの方との面会もできず心苦しかつた</p>
	<p>新型コロナの影響で面会ができず、しっかり状況把握がしにくい</p>
	<p>照会の作成が早くなつたが、1カ月かかる所もある。</p>
	<p>退院することを家族より聞いて病院へ聞き取り確認をすることが多い。退院ぎりぎりでの調整のため、もう少し早めゆとりがあると調整しやすい</p>
	<p>書類依頼時、すぐに返信いただけないときがある</p>
	<p>入院後しばらくして退院までの見通し等を話し合いたいときに、相談担当のいない病院はなかなか上手く話が進まない。退院時も連携しづらい事がある。</p>
	<p>ワーカーのいない病院とのやり取り、情報がもらえない</p>

問18 ぼんちネットにどのような情報があればよいと思いますか

市民(市民に向けた新しい資源情報をネットで流してほしい)

医療保険、介護保険での最新の情報が知りたい

特にありません

グループホーム、特養等の空き情報。新規事業所の情報

HP確認しました。医療介護以外の社会資源情報があればよい。

'在宅ぼんちネット'の名称は協議会の愛称名ですか。そもそもそれが分かりません。

まずはネットを拝見させていただかないとどういった内容なのか分かりかねますので、一度、拝見させていただければと思います

初めて拝見しました。とても見やすく、良いですね。

医療と介護が結びやすい情報、相談しやすい場所の情報があればよいと思います

これから内容を確認してみます

高齢者に分かりやすい情報の提供が必要と思われる(高齢者のみの世帯が多いため)

エンディングノートやDNRについて

透析患者についての情報がほしい

高崎町ですが、市内中心部と異なり、訪問介護事業所や配食サービスなど、相談しても対応できないと言われることが多いです。辺地でも公的にサービスできる体勢があると良いです。

医療・介護の中では勉強会でZoomでの研修会など支援側の質の向上に頑張っていますが、市民レベルでは認知は低かつたり、情報を得る機会が無かったり、知る手段も無い方たちが多い。地域ごとにもっと発信したり、座談会を開いていくと良いと思う。書面では伝わりにくい。

在宅医療・介護連携相談支援センターの相談事例を、Q&amp;A方式でアップしてくださると助かります

資源マップについて、各事業所の写真や特色等も書かれていると活用しやすい。市民の方は困ったときに情報を探されると思うので、困りごとに対する相談窓口の案内など、具体的な解決法が書かれていると良いかと思った。

病院や施設選びのコツ。介護給付券を申請されているご家族に尋ねてみるのも良いのではないでしょうか。

災害時における避難所の公示等

地域の活動にどのようなものがあるのか

検索欄に高齢者が必要とする社会資源として配達サービスの検索、例えばお弁当屋さん等

居宅事業所の紹介や、介護保険申請の流れなど

少し、ホームページが見にくかったです。

保険外サービス

インフォーマルサービスについて

交通機関(バス、移送サービスなど)の情報などあると、助かるのではないかと思います

ふるさと納税を使ってコロナ対応(予防)、何かしらのセーフティーネット強化や啓発とか。具体的には分からない

病院・施設等の空き状況について

当番医の情報。セカンドオピニオンの仕組み、相談窓口

老老介護の方や、身近に支援者のいない独居の方は、通院への交通手段を一番悩まれています。HPで通院送迎ができるところや、介護タクシーの料金の情報等あると良いなと思います。
買い物支援サービスやごみ出し、訪問理美容サービス等の社会資源についての情報があると良いと思う
介護の体験談とか載せても良いかも
在宅で手軽に行える健康法や、運動などの発信。医療や介護で困ったときのフローチャートなど、簡単に見れるものの発信。
医療・介護の相談窓口について分かりやすい情報。介護保険制度について(相談からサービス利用までの具体例等)
社会資源の情報。検索がもう少し分かりやすい方がよいのでは。
チャットや検索機能。
地域資源情報や活用法、ボランティア事業を行っているところの種類、内容等の紹介・情報など。
市内から離れている市民へ、送迎できる病院があると良い。
だれにでも介護や医療のシステムなど、わかり易く説明していただきたいと思います。
退院後、在宅介護へ移行する際、「どのような対応があるのか?」「誰に相談すれば良いのか。」をわかり易く説明してもらえると良いと思う。
在宅ぼんちネットをさっそく見て見ました。医療や介護資源だけでなく、住民参加型の資源も手軽に見れたら(知れたら)良い。
往診・看取りをして下さる病院のリスト。
在宅看取りに対応しているDr.の情報。・訪問系サービスの種類や内容。
地域住民や自治会単位で活動しているボランティアの紹介
インフォーマルサポートも情報として示してもらえるといいと思う(ヘルパーでは対応できない支援等が必要な方々が多い為)。

## 問19 医療と介護の連携において

新型コロナ感染拡大の中での医療と介護の連携も難しくなっています。これからは、Zoomによる多職種との連携等ができるようになれば良いなあと思いますが、色々な問題等もあり難しい面もあるようです。

個人病院、CWがいない病院との協議、連携の場が持てると良いと思います

入院したときに情報を送り、連携を図らせてもらいますが、HPのケースワーカーによっては連絡をほとんど下さらない方もいます

コロナ禍で直接研修に参加する機会が減り、ズームや電話口だけの対応となっている。直接お会いする機会があつたら良いです。

Zoomなどのオンラインツール体制づくりへの助成があれば、導入が進むんじゃないかなと思います。

コロナ禍の中、入退院の連携のあり方について、情報の収集の難しさを感じる

コロナ感染症対策にて連携(面会・カンファレンス等)は難しくなっているので、状況に応じた対応策を考える必要がある

コロナ感染症対策で病院等面会禁止のため、色々不都合(情報収集、関係性等)必要時は面会ができるよう、コロナが早く落ち着くようお祈りさせていただきます。

一般の人の周知やレベルアップになるようにしてほしいです

直接医療機関に行かなくても、FAX等で連携できるように手続を簡素化していけると助かります。もちろん、一部の病院ではそうなっていますが、そうでない所もあります。

退院カンファレンスを行っていない病院が多い

退院前のカンファレンスで実際に行うのが難しいときはZoom等を使って行ってほしい

文書のやり取りよりもカンファレンス(話し合い)をする機会を増やしてほしい

訪問診療のできる病院や、医院が増えると良いです。訪問看護は増えてきた気がします。

ルールブックの活用を行っているが、医療側はサマリー等があり、退院時の状況が得られにくく(一部介助がどの程度なのか 等)相談員に電話で確認する等、相談員の負担も大きいと感じる。医療・介護が使いやすい情報共有ツールがあると良い。

インフォーマルサービスも載せてほしい

MCSが利用しやすいように整備してほしい

指示確認等で定期的に医療機関によって文書が良いのか口頭や面接が良いのかの情報提供をしてもらいたい

重度の医療的処置の対応ができる施設の情報提供

批判ではなく現実感じていることです。介護と医療の連携は重要と感じていますが、とにかく書類ありきになってしまい、その他の業務を行う上でも書類作成量が現在でも増え続けているため負担です。働き方改革が進められている今日、適切な就労時間で終える業務内容にならないと本質の部分は変わらない気がします。

MCSを活用しています。活用前はあまり興味がありませんでしたが、活用していくうちに連携が図りやすくなつた。

連携室が無い病院は、連携を図るのに看護師とやり取りをするが、電話をかけるのにいつの時間帯が良いのか不明。受付に取り次いでもらうのに保留時間が長く、息切れした状態で話をしてもらうに申し訳なさを感じる

今回のアンケートで在宅ぼんちネット覗いて見ました。医療機関や鹿医療機関の情報もあり、介護サービス事業所もあり。今後活用していきたいです。

介護されるご家族が精神的疾患や不安定な状況があることが最近多く思います。ご家族へのフォローを専門に関わる期間を設けてほしい。ケアマネジャーだけでは負担も大きく、対応できる範囲にも限界がある。多職種のそれぞれにも家族を支援する組織作りや対応する担当を構築してほしい。

医療から介護への指示等の関わりが少ない。連携を行い、利用者様が自立していくように協力していかなければならないと思うが、医療は医療、介護は介護で対応するようになっていると思われる。

入退院連携シートについて多職種で見直しする機会を作り、より現場で活用しやすいものにできたらと個人的に思います。また、オンラインが主になっていますが、コロナが落ち着けば多職種で集合による研修会や懇親会で、直接色々な話ができることで顔の見える関係が作っていけたらと思います

退院時におけるリハビリや住宅改修を組むときに病院のセラピストと事業所のセラピストで考えが違うときがあるため、CMだけでなくPT、OTとの連携が図れる場が欲しいときもある。

歯科による居宅療養管理指導の終了はやはり歯科医師の判断になるのでしょうか。義歯の調整も終わり、口腔ケアの仕方等を介護職へ指導あれば、後は介護職で行えるのではないかと思っているのですが、居宅療養管理指導のときに、ケアの仕方までは職員に指導は無いようです。

皆さん、意識的に連携をとる努力をされていると日々感じています。

どの病院でも入退院時の連携が図れたら良いと思います。退院カンファレンスがあると、自宅へのサービス移行の調整がスムーズのように感じます。

リハビリ目的で1ヶ月ほどの入院(転院)期間をHP、ご家族よりうかがっており、退院後のサービス調整などしていたが、不穩症状があり1Wで退院となったことで、十分なリハビリも無く自宅に戻されたケースがあった。親身なMSWがいるところは、専門医に繋いで受診し入院してもらうなどの対応をとってください。早まる退院であれば、HP側もただ退院させるだけでなく、何かしらの協力、今後のリハビリの助言等をお願いしたいです。

MCSについて詳しく学びたい

連携がとりやすいところ(書面等含む)ととりにくいところの差があるよう感じます。そのあたりのお互いの認識が良くなると、ぼんちネット等の活用等多くなるのではと思います。

主治医に頂く書類。戻りが遅く、仕事に支障が出ることがある。早くに出しているが、間に合わない事も多い。忙しいのは承知しているが、困っている。

医療より強く言われると、本人を支援する方はどう対応して良いのかわからないこともあります。医療の方もその方の取り巻く状況などを踏まえた上での助言を頂ければ、本人・介護者も安心して支援できるかと思います。

医療と介護の連携の方法について、ある程度のマニュアルが欲しい(共通認識が欲しい)。病院ごとに連携方法について確認する必要があり、時間をとられる。共通の連携用紙など欲しい。

コロナ感染拡大により、入院や入所施設などが閉鎖的で、日常の様子などの確認がとれにくくなる為、情報公開できるものがあればいいと思う。

入院～退院で、早めのカンファレンスで、退院後の在宅での生活。医療や介護サービスの選択肢が出来ると良い。

ワーカーがいる医療機関は連携が取り易い。ただ、いたとしても、転院・退院時の連絡が来ない事がある。

病院によって連携の密度が違う為、統一してほしい。

病院によっては退院する事を知らせて下さらない病院もある為、退院が決まつたら、お知らせが頂きたいと思います。

「医療」「介護」それぞれが、お互いの職種を理解し、スムーズに連携していく必要があると思います。

・入院の連絡はあっても、退院したとの連絡がなく、いつの間にか退院している事がある。・病院に相談員の居られないところは、担当者を設けて下さると助かる。・CMにも要望があれば、声を聞かせて欲しい。

病院によって連携しやすいところと、そうでないところがある。ケースワーカー一覧表などあると、連携しやすいかもです。

・医療機関の職員への介護保険や障害者施策の啓蒙。・介護保険サービス事業者への医療入院のしくみ等の啓蒙(入院日数や転院等のことでの不満をよく耳にする為)